

第6回 薬学研究者養成者セミナー報告書

2021年11月10日

報告者：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター
がんプロプログラムコーディネーター 講師 中村暢彦

日時：2021年10月26日（火）～11月3日（祝水）

開催形式：オンデマンド開催（streamを利用したWebセミナー）

主催：多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）～高度がん医療を先導するがん医療人養成～

参加者数：71名

概略：

薬学研究者養成者セミナーは「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）の主催で、がん専門薬剤師を目指す大学院生および学部生等向けに、がん医療のチームの一員として『現場で科学する』薬剤師の養成を目指す一環として実施された。

内容：

講演1では、佐賀大学 創薬科学共同研究講座 特任准教授の渡邊 達郎先生から「新規脱メチル化剤の研究開発」と題した講演が行われた。分子からメチル基を除去する化学過程である脱メチル化はがん化に深く関与している。例えば脱メチル化剤として、臨床では骨髄異形成症候群の治療に用いられるアサシチジンが国内外で承認されている。しかし、アサシチジンは患者に対しては経口投与ではなく、1日1回7日間連続して皮下投与または点滴静注を行う必要がある。また、類似の骨髄異形成症候群に対する経口剤もない。そこで渡邊先生のグループは患者の負担を軽減し、安全な飲み薬の新たな脱メチル化剤の開発を目指されている。新規の経口脱メチル化剤は動物実験ではがん細胞の増殖を抑制し、血液毒性が低減された。2022年のPhase 1試験に向けて準備を進められている。

講演2では、京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康解析学講座（薬剤疫学分野）の川上 浩司先生から「臨床疫学とリアルワールドデータ」と題した講演が行われた。リアルワールドデータは、保険請求情報や電子カルテデータ等の日常の診療から得られる医療データの総称である。これまで、保険請求情報や調剤薬局の調剤レセプトを用いた研究が行われており、本講演では、これらのリアルワールドデータを用いた様々な臨床研究についてご紹介いただいた。一方、電子カルテデータは病院間でシステムが標準化されておらず、十分に活用されているとは言い難い状況である。川上先生は、各病院の電子カルテデータから患者背景、医薬品の処方状況、検査値等の情報を匿名化した状態で抽出し、学術領域や産業領域における利活用を推進されている。さらに、リアルワールドデータを用いた臨床研究による適応拡大の話題も挙げていただいた。米国FDAにおいて、palbociclibは、ランダム化比較試験を実施せず、リアルワールドデータを用いた臨床研究の結果に基づき適応が拡大された。このように、多くの具体例を挙げていただき、臨床疫学の研究者がどのような研究に取り組まれているか丁寧にご講演いただいた。

<渡邊 達郎 先生>

第6回 薬学研究者養成セミナー

新規DNA脱メチル化剤の開発研究



渡邊 達郎

佐賀大学 創薬科学共同研究講座

sn6538@cc.saga-u.ac.jp

<川上 浩司 先生>

2021年10月6日
京都薬科大学



臨床疫学とリアルワールドデータ

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻
健康解析学講座（薬剤疫学分野）教授
臨床情報疫学（MCRコース）ディレクター
デジタルヘルス学産学協同講座・研究責任者
川上 浩司
(URL) <https://kupe.med.kyoto-u.ac.jp/>
(Email) kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp